

ものづくりマイスター事業の推進状況と課題

1 マイスターの認定状況について

- 11月15日現在で全国のマイスター認定数 2,417 人と、本年度年間目標（1,420 人）をすでに上回るなど概ね順調な認定状況。
- 職種別、地域別のバランスを確保した上での認定数の計画的拡大等が今後の課題。
- 推進会議の議論等を踏まえ、認定基準、開拓・審査・認定の体制を整えた上で、本年 7 月から認定開始。逐月の認定人数は 7 月 210 人→8 月 521 人→9 月 786 人→10 月 493 人→11 月 407 人と軌道に乗りつつあるもの。
- この結果、11 月現在のマイスター認定人数は全国 2,417 人と、すでに年間目標（1,420 人）を上回るなど、全体としては概ね順調。
- 職種別で見ると、①機械加工（371 人）、②建築大工（246 人）、③造園（199 人）といった、実技指導派遣ニーズが見込まれ、技能士数等の母数も大きい、いわゆる基幹職種が多数。他方、認定数ゼロ、ごく少数に止まる職種も散見。
- 地域別に見ると、①東京（125 人）、②石川（124 人）、③徳島（104 人）、④福岡（101 人）と、必ずしもものづくり技能者の集積等に合致しない実態。現状ではごく少数の認定実績にとどまる県との格差大。
- こうした職種別、地域別の認定状況、また下記 2 に示す実技指導等の派遣ニーズを踏まえたバランス確保に十分配慮の上、マイスターの要件を満たす有為の人材の計画的な開拓、認定を進める必要。

2 マイスターによる実技指導等の実施状況について

- マイスターの実技指導等は、認定の蓄積を踏まえ、さらに派遣ニーズの把握、マッチング等を通じ実現するため、タイムラグが生ずる構造。
 - この結果、実技指導等の実績は、10 月末現在で全国 9,338 人日（実技指導実施回数では 744 回）と、本年度年間目標（51,120 人）には大きく及ばない現状。
 - 派遣先の内訳として学校に偏り、これに応じた職種に集中している実態。
 - 対企業を重点に、地域ごとの派遣ニーズの明確化・個別開拓を進め、マイスターとのマッチングを軌道に乗せることがまずもって重要。
- マイスターの実技指導等の実施は、マイスター認定を進め、蓄積が図られた上で、さらに制度の広報、派遣ニーズの把握、マッチング等のプロセスを経て実現する仕組み。このため、認定に対し一定のタイムラグが生じ、8 月から順次展開、10 月末時点で全国 9,338 人日にと

どまっているところ（本年度年間目標 51,120 人）。

- 内訳は、企業等への実技指導が 777 人日、学校（工業高校、訓練機関）への実技指導が 4,276 人日、ものづくり体験教室等への派遣が 4,285 人日と、ニーズが顕在化しやすい学校等への派遣に集中しており、企業等との関係では派遣に向けた調整段階にある地域が多数。
- 職種別で実施回数ベースの実績を見ると、①機械加工（116 回）、②建築大工（38 回）、③とび（32 回）等、認定状況以上に学校の派遣ニーズの高い特定職種に集中し、多くの職種では派遣にまで至っていない現状。
- 今後、個々の指導事例の内容、評価等を十分検証する必要があるが、まずは、地域ごとに連携会議等の仕組みを活用し、派遣ニーズの明確化、具体の開拓を精力的に進め、マイスターとのマッチングを行うことで、「事業の両輪」の足並みを揃え、軌道に乗せることがまずもって重要。

3 利用者の満足度で見た成果について

- マイスターの実技指導を利用した企業等、訓練生の満足度は、ともに 99%（目標は 80%以上）と、ともに高い利用者評価。

↓
↓

- ◎ 以上の定量的な事業実績把握・分析に加え、実技指導等の具体の事例、指導対象、マイスター自身、その他関係者の評価等も踏まえ、今後の事業運営の重点の明確化、運用の見直し等を図る必要。